

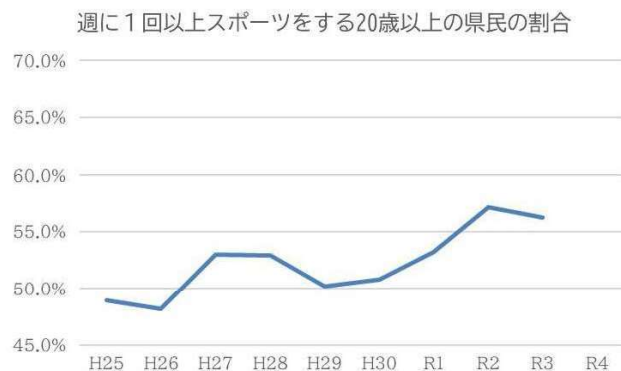
# 第2章 本県におけるスポーツの現状及び課題

## 1 第2期計画の達成状況

平成30年3月に策定した第2期計画は、「スポーツがつくる 活力ある埼玉」を基本理念として、スポーツを通じて埼玉県がより活力ある県となることを目指して策定されました。第2期計画では7つの指標を設定し、その達成に向けて取り組みました。

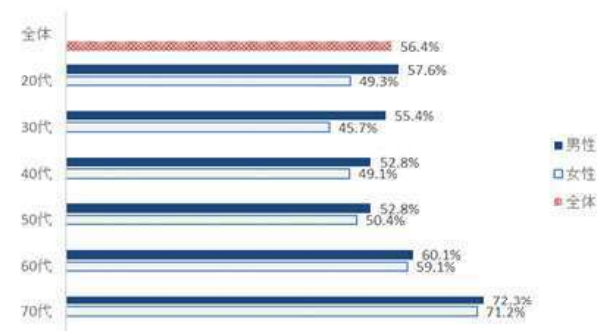
### ① 【指標1】週に1回以上スポーツをする20歳以上の県民の割合

- ・ 目標値「65.0%以上」に対し、令和3年度は56.2%となっています。様々なスポーツ大会やイベントの開催、レクリエーション活動の普及等により、全体的にスポーツ実施率は上昇傾向にあるものの、目標には達していません。なお、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等により、前年度と比較してスポーツ実施率が減少しています。<sup>10</sup>
- ・ 年代別にみると20歳代～50歳代の実施率が低く、働き盛り世代・子育て世代の実施率の向上が課題となっています。また、男性と比較して、女性のスポーツ実施率が低い傾向があります。



埼玉県政世論調査

(参考)成人の週1回以上運動・スポーツをする者の割合 (全国)

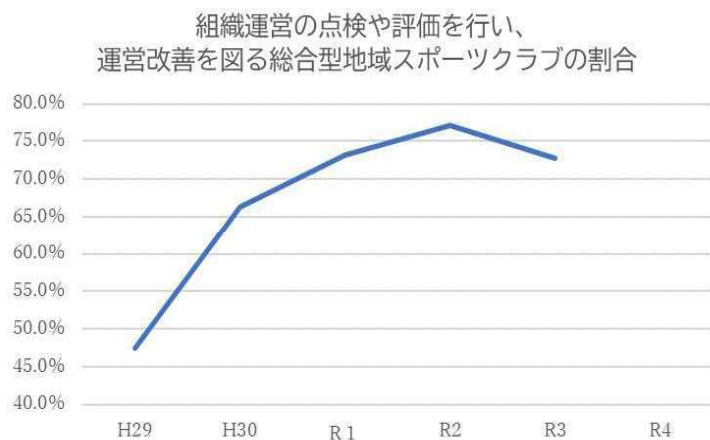


スポーツ庁・スポーツの実施状況等に関する世論調査

<sup>10</sup> 令和3年7月9日～7月30日に、過去1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施とその頻度を調査した。

## ② 【指標2】 組織運営の点検や評価を行い、運営改善を図る総合型地域スポーツクラブ<sup>11</sup>の割合

- ・ 目標値「70.0%以上」に対し、令和3年度は72.7%となっています。令和元年度に目標値を達成し、その後も割合は増加しました。PDCAサイクルにより運営の改善・充実を図る総合型クラブの増加により、質的な充実が図られています。
- ・ 今後は、令和4年4月から運用が開始された総合型クラブの登録・認証制度を通じて、総合型クラブの客観的・質的な向上を図るとともに、総合型クラブと地方公共団体等との連携による地域課題の解決に向けた取組の促進が求められます。また、国の「運動部活動の地域移行に関する検討会議」<sup>12</sup>提言のとおり、運動部活動の地域移行における実施主体として、総合型クラブの組織基盤の確保や活動環境の整備、学校との連携が求められています。



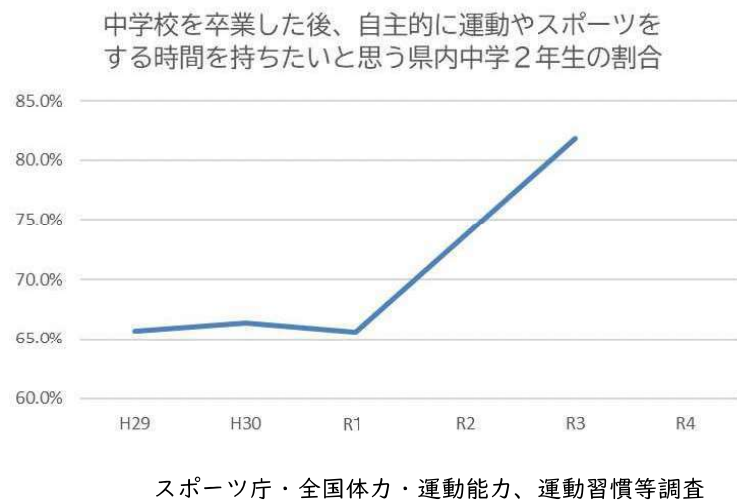
スポーツ庁・総合型地域スポーツクラブに関する実態調査

<sup>11</sup> 人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子供から高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。

<sup>12</sup> スポーツ庁「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言について」[https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/shingi/001\\_index/toushin/1420653\\_00005.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/001_index/toushin/1420653_00005.htm)

③ 【指標3】 中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う県内中学2年生の割合

- ・ 目標値「80.0%以上」に対し、令和3年度は81.8%<sup>13</sup>となっています。
- ・ 目標値は達成しましたが、将来多くの子供たちが継続的にスポーツに親しむ機会を持つことができるよう、更に割合を増加させる必要があります。児童及び生徒の特性に合わせた指導を通じ、スポーツの楽しさや面白さを実感できるようにしていくとともに、総合型地域スポーツクラブの充実など、学校外の地域でのスポーツができる場を設けることが必要です。



<sup>13</sup> 令和2年度は、指標数値算出根拠となる調査（スポーツ庁・全国体力・運動能力、運動習慣等調査）が実施されなかったため、データなし。なお、当該設問への選択肢は、令和元年度調査までは3択（思う、思わない、分からない）、令和3年度調査からは4択（思う、やや思う、あまり思わない、思わない）となっている。

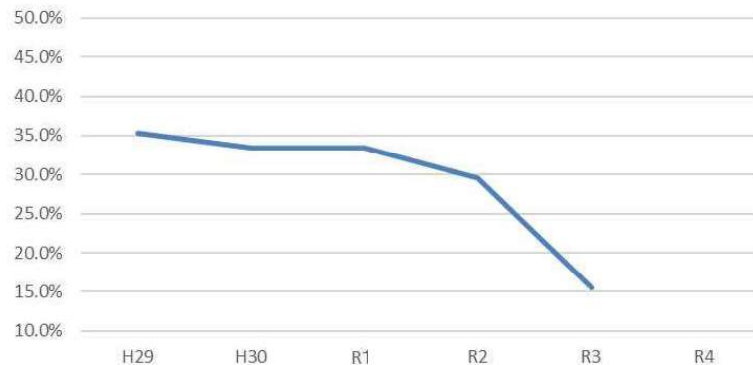
④ 【指標4】 過去1年間に県内で行われたスポーツ大会やスポーツの試合を実際に会場で観戦する機会があった県民の割合

- ・ 目標値「50.0%以上」に対し、令和3年度は15.5%となっています。ほぼ横ばいの状況が続いており、目標値には届いていません。
- ・ 令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響でスポーツイベントの中止や外出の自粛の要請、無観客試合が開催されるなど、スポーツを観戦する機会が減少しました。ウィズコロナ・ポストコロナ社会を踏まえ、安心・安全にスポーツを観戦できる仕組みや方法を確立していく必要があります。

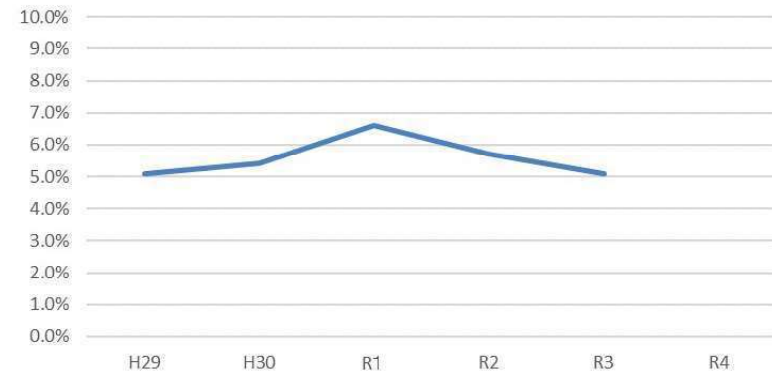
⑤ 【指標5】 スポーツイベントやスポーツの指導への協力等、スポーツに関するボランティア活動を行っている県民の割合

- ・ 目標値「10.0%以上」に対し、令和3年度は5.1%となっています。
- ・ ほぼ横ばいの状況が続いており、目標値には届いておりません。指標4と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響でボランティア活動を行う機会も減少しています。今後、スポーツボランティアの参画を促進するにあたっては、感染症対策等の安全・安心にも配慮した形や、自宅で実施が可能なボランティア等の検討が必要です。引き続き、県民のスポーツ活動のサポート役としてのボランティア活動を活発化させるため、ボランティア活動の重要性ややりがいを周知するとともに、広く参加可能なボランティア情報を発信することが求められます。

過去1年間に県内で行われたスポーツ大会やスポーツの試合を実際に会場で観戦する機会があった県民の割合



スポーツイベントやスポーツの指導への協力等、スポーツに関するボランティア活動を行っている県民の割合



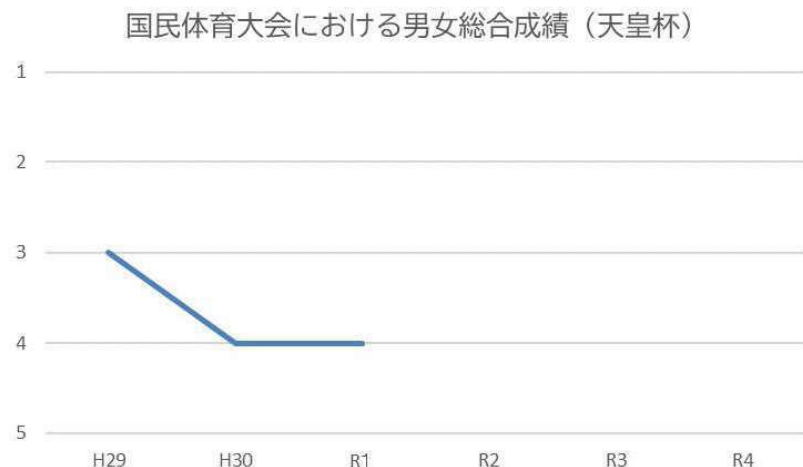
埼玉県政サポーターアンケート

⑥ 【指標6】 国民体育大会<sup>14</sup>における男女総合成績（天皇杯）

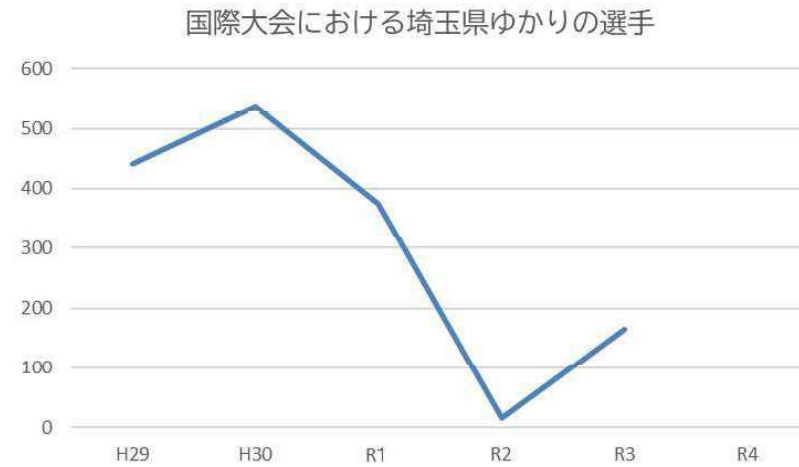
- ・ 目標値「3位以上」に対し、平成30年度、令和元年度は「4位」でした（令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大会中止）。目標は未達成ですが、開催地を除いた順位では、平成30年度は、東京、大阪に次ぐ第3位、令和元年度は東京、愛知に次ぐ第3位と健闘しています。今後も、トップアスリートへの支援に加え、指導者の資質向上等の競技力向上のための施策の推進が必要です。

⑦ 【指標7】 国際大会における埼玉県ゆかりの選手

- ・ 目標値「500人以上」に対し、平成30年には「537人」と目標を達成しました。その後は、新型コロナウイルス感染症拡大による国際大会の中止等を受け、大きく減少しております。今後も、ジュニアからトップアスリートまでの首尾一貫した競技力向上の施策の推進が必要です。



※令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大会中止



埼玉県スポーツ振興課調べ

<sup>14</sup> 「国民体育大会」の名称を「国民スポーツ大会」と改める「スポーツ基本法の一部を改正する法律」が平成30年6月に成立した（施行日令和5年1月1日）

## 2 県民のスポーツ活動の状況と課題

### (1) 成人のスポーツ活動<sup>15</sup>

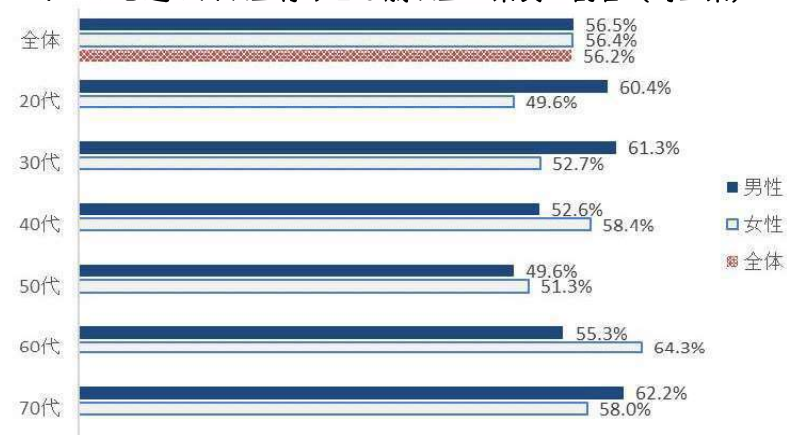
#### ① スポーツを週1回以上行う20歳以上の県民の割合

県政世論調査（令和3年度）によると、1年間にスポーツを週に1回以上行う20歳以上の県民の割合（スポーツ実施率）<sup>16</sup>は令和3年時点で56.2%であり、第2期計画の目標値である「65.0%以上」には到達していません。スポーツを「週に1回以上」実施した割合を年代別にみると、20～50歳代である「働き盛り世代」「子育て世代」の実施率が低くなっています。さらに、性別別にみると、「女性」の実施率が低くなっています。

#### ■課題

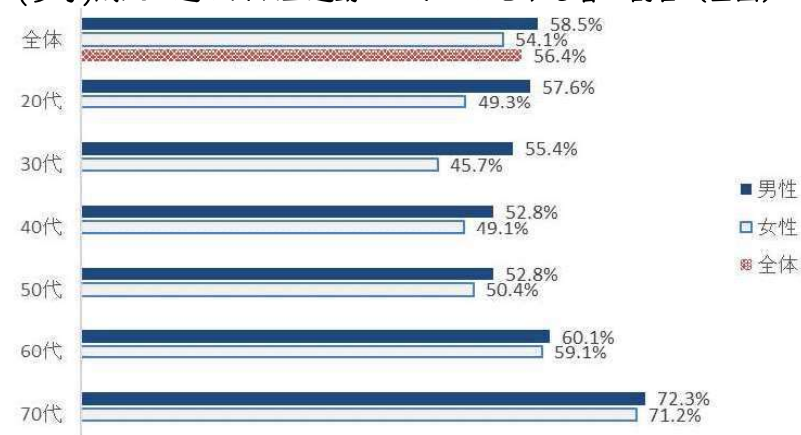
県民誰もが生涯にわたって継続して健康や体力を維持するためには、スポーツ実施率が低い「働き盛り世代」「子育て世代」「女性」をターゲットにした効果的な対応が求められます。

スポーツを週1回以上行う20歳以上の県民の割合（埼玉県）



埼玉県「令和3年度県政世論調査」

(参考)成人の週1回以上運動・スポーツをする者の割合（全国）



スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（令和3年度）

<sup>15</sup> 成人には、障害者の方も含む。障害の有無に関わらず、成人の県民全体を指す。

<sup>16</sup> 2022年4月から成人の年齢が20歳から18歳に引下げられた。第2期計画では、1年間にスポーツを週に1回以上行う「20歳以上」の県民の割合を指標としていたことから、本項では、「20歳以上」の状況について記載する。

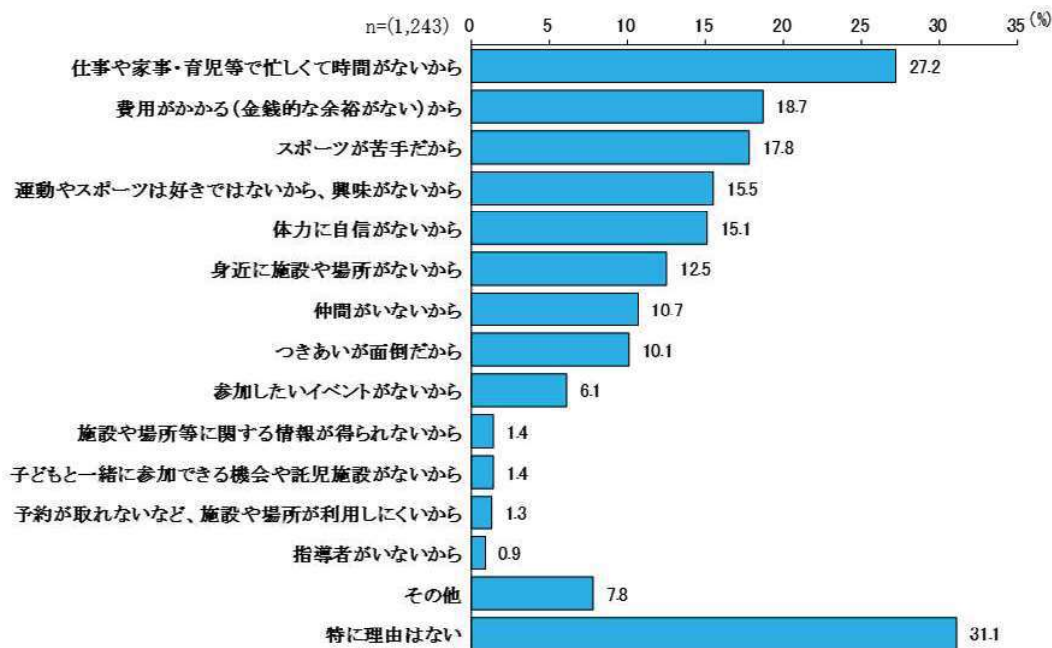
## ② 週1回以上スポーツをする機会がなかった（しなかった）理由

週1回以上スポーツをする機会がなかった理由は、「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」（27.2%）が最も多く、次いで、「費用がかかる（金銭的な余裕がない）から」（18.7%）、「スポーツが苦手だから」（17.8%）、などとなっています。

### ■課題

仕事や家事・育児等で忙しくて時間がない「働き盛り世代」「子育て世代」に、職場や仕事・家事の合間でもスポーツに触れるきっかけを作り、何よりもスポーツの「楽しさ」や「喜び」を感じてもらうことが重要です。このためには、通勤時間や休憩時間に気軽に取り組めるスポーツの紹介や、スポーツに親しむ余暇時間を増やすための環境づくりや意識啓発等の推進が求められます。また、スポーツをあまり経験していない人を含め、より多くの人にスポーツを身近に感じていただき、更にスポーツに親しんでいただけるよう、レクリエーションや様々なスポーツに触れる機会を拡大・充実していくことも重要です。

### 「スポーツをしない理由」（成人）



埼玉県「スポーツに関する県民意識・実態調査報告書（令和3年度）」



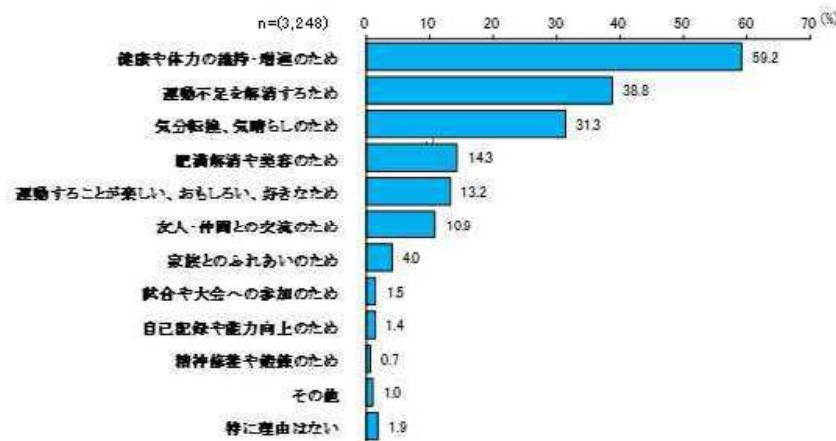
### ③ スポーツをする理由

令和3年度に実施した「スポーツに関する県民意識・実態調査（以下「実態調査」という。）」によると、運動やスポーツをする理由は、「健康や体力の維持・増進のため」（59.2%）が最も多くなっています。第2期計画策定に際して、平成28年度に実施した「埼玉県民のスポーツに関する意識・実態調査」の結果（61.1%）とほぼ同じ割合です。年代別に見ると、全ての年代で「健康や体力の維持・増進のため」が多く、年代が上がるほど、その割合は増えています。60歳以上では、73.9%と高い割合を示しており、高齢になるほど健康や体力への関心が高まっています。一方で、20歳代から30歳代の若い世代では、「気分転換、気晴らしのため」との理由が他の世代と比較して高くなっています。スポーツの語源「Deportare」とは、「運び去る」の意であり、転じて、仕事や家事といった「日々の生活から離れる」気晴らしや遊び、楽しみ、休養といった要素を指しています。本来、スポーツは人生をより楽しめるものに、そして健康的で生き生きとしたものとするためにあるべきものです。<sup>17</sup>

#### ■課題

「運動することが楽しい、おもしろい、好きだから」との回答が、13.2%と低い割合にとどまっていることから、今後、スポーツ実施率を向上させるためには、スポーツの持つ本来の魅力、楽しさや喜びが実感できる取組が求められます。そして、多くの県民がスポーツを継続的に楽しむためには、無理のないやり方でスポーツをすることが必要です。そのためには、スポーツをする際の正しい知識の啓発とともに、十分な知識と技術を持つ指導者の育成と活用が重要になります。

スポーツをする理由（成人）



スポーツをする理由（成人・年代別）

	調査数	健康や体力の維持・増進のため	運動不足を解消するため	気分転換、気晴らしのため	肥満解消や美容のため	運動することが楽しい、おもしろい、好きのため	友人・仲間との交流のため	家族とのふれあいのため	試合や大会への参加のため	自己記録や能力向上のため	精神修養や鍛錬のため	その他	特に理由はない
全体	3248	59.2	38.8	31.3	14.3	13.2	10.9	4.0	1.5	1.4	0.7	1.0	1.9
20-29歳	430	43.3	33.3	38.6	18.6	19.3	15.6	3.5	2.8	1.9	0.9	0.7	2.1
30-39歳	510	45.9	40.2	33.9	23.1	12.7	10.2	8.0	1.4	1.6	1.6	0.4	1.6
40-49歳	614	51.5	38.3	32.7	19.2	10.9	8.8	6.2	1.3	1.5	0.5	1.0	2.3
50-59歳	458	59.8	33.8	31.4	13.3	14.6	7.4	3.3	1.3	1.3	0.7	2.2	3.1
60歳以上	1236	73.9	42.2	26.9	7.0	11.8	11.8	1.7	1.3	1.1	0.3	0.8	1.4

埼玉県「スポーツに関する県民意識・実態調査報告書（令和3年度）」

<sup>17</sup> 参考・スポーツ庁広報 WEB マガジン DEPORTARE.



#### ④ スポーツの現地観戦割合・スポーツに関するボランティアに参加した割合

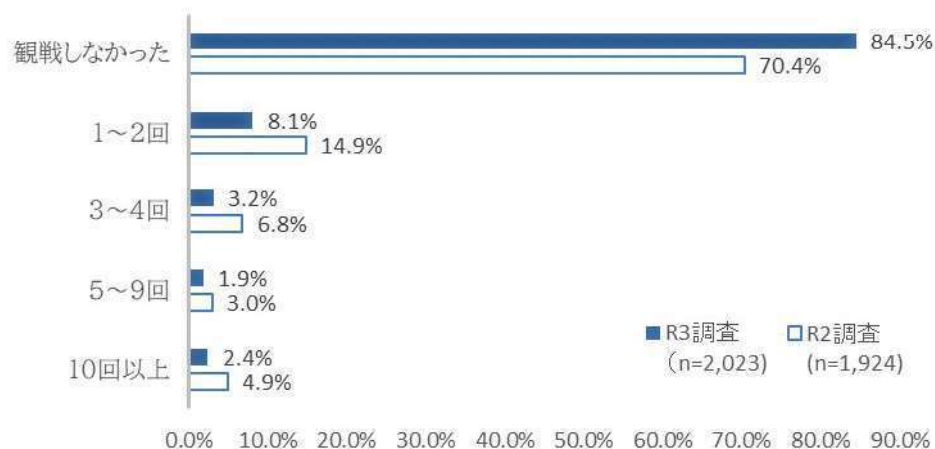
県政サポーターアンケートによると、過去1年間に県内で行われたスポーツ大会やスポーツの試合（プロ、アマを問わず）を実際に会場で「観戦した」と回答した人の割合（スポーツの現地観戦割合）は、例年3割程度にとどまります（平成30年度、令和元年度とも約3割。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、実観戦率は非常に低い状況）。

スポーツに関するボランティア（スポーツイベントやスポーツの指導への協力等）に参加した人の割合は約5%ですが、当該活動を「行いたい」と思っている人の割合は約3割であり、スポーツの現地観戦をした人と同程度の割合となっています。

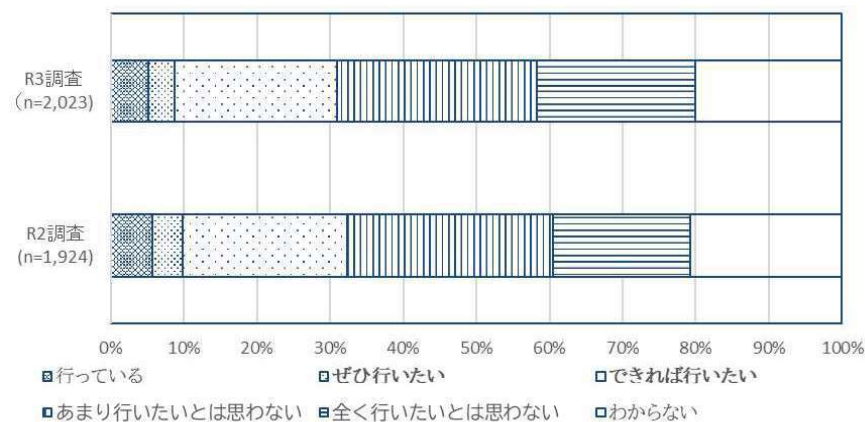
##### ■課題

スポーツ参画人口の拡大に向けては、「する」スポーツに加えて、「みる」、「ささえる」というスポーツへの幅広い関わり方を積極的に提案していく必要があります。スポーツ観戦やスポーツボランティア活動をより活発にするためには、魅力あるスポーツ大会やイベントの開催、スポーツ関連情報の積極的な発信が求められます。また、スポーツボランティアの育成を推進するため、研修の充実も重要です。

過去1年間のスポーツの現地観戦割合



スポーツに関するボランティアに参加した割合



※R3結果 「ぜひ（できれば）行いたい」・・・25.9%  
「あまり（全く）行いたいとは思わない」・・・49.0%  
埼玉県「県政サポーターアンケート」

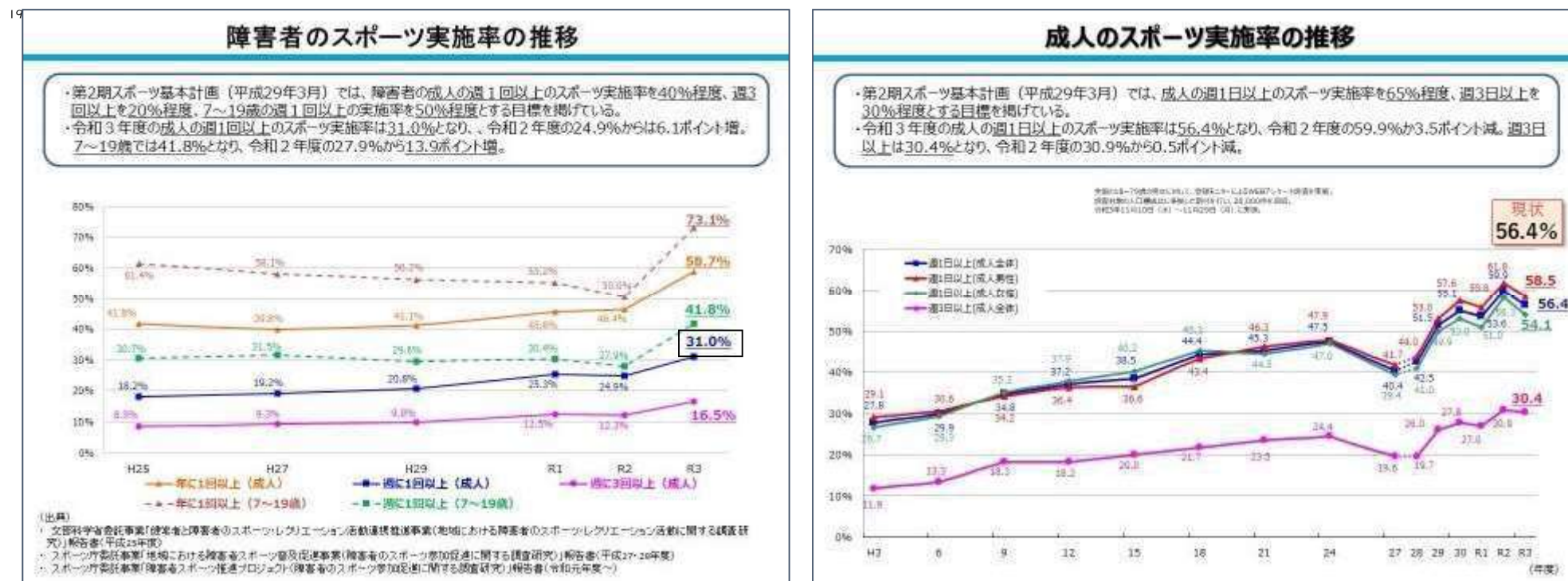
## (2) 障害者のスポーツ活動

### ① 週1回以上のスポーツ実施率

スポーツ庁の調査によると、全国における週1回以上の障害者（成人）のスポーツ実施率（モニター）は、31.0%（令和3年度）となっており、全国における成人全般の実施率の56.4%と比較して25ポイント近く低くなっています。

#### ■課題

東京2020大会のパラリンピックのテレビ放送時間が過去最長となり、また、多くの競技についてオンラインで動画が配信されたこと等により、多様なパラアスリートによる多様な競技での活躍が県民の目に触れました。今後、日常生活においてパラスポーツ<sup>18</sup>が身近に感じられる社会を実現し、障害者のスポーツ実施につなげる必要があります。



<sup>18</sup> 本計画における「パラスポーツ」「障害者スポーツ」の用語の取り扱いについては、〇(ページ確定後記載)ページを参照

<sup>19</sup> スポーツ庁ホームページから引用 [https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/sports/mcatetop05/list/1371920.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop05/list/1371920.htm)

(参考・過去1年間の運動・スポーツを行った日数(障害種別・7~19歳/成人別・性別)<sup>20</sup>)

※成人のみを抽出したグラフを挿入予定

		性別	過去1年間の運動・スポーツを行った日数(%)						
			(年1日以上の日)	(年5日以上の日)	(年10日以上の日)	(年15日以上の日)	(年20日以上の日)	年1日以上	行っていない
全体	7-19歳	合計[N=1077]	18.9	22.8	11.5	5.8	2.5	11.7	28.9
		男性[N=656]	21.3	23.5	13.0	5.5	2.4	11.3	23.0
		女性[N=407]	14.7	22.6	8.8	5.7	2.7	12.5	32.9
		その他[N=14]	28.6	0.0	21.4	7.1	0.0	7.1	35.7
	成人	合計[N=6188]	16.5	14.6	9.9	3.2	2.7	11.8	41.3
		男性[N=3188]	18.0	15.2	10.2	3.4	2.6	11.6	39.0
肢体不自由(車椅子必要)	7-19歳	合計[N=72]	15.3	12.5	13.9	9.7	1.4	13.9	33.3
		男性[N=40]	15.0	12.5	17.5	12.5	2.5	5.0	35.0
		女性[N=28]	14.3	14.3	10.7	7.1	0.0	25.0	28.6
		その他[N=4]	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0
	成人	合計[N=667]	10.8	13.3	11.7	4.9	2.1	9.3	47.8
		男性[N=313]	9.6	13.1	12.1	6.4	2.2	9.6	47.0
肢体不自由(車椅子不要)	7-19歳	合計[N=184]	13.0	12.0	7.1	7.8	2.7	16.8	40.8
		男性[N=89]	8.6	9.7	8.6	6.6	2.2	16.1	48.4
		女性[N=93]	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		その他[N=2]	18.0	12.2	8.9	2.4	2.5	13.2	42.7
	成人	合計[N=1759]	16.1	12.2	7.8	2.2	2.5	13.3	45.9
		男性[N=876]	14.3	12.3	6.6	1.9	2.5	13.3	49.0
視覚障害	7-19歳	合計[N=49]	26.5	22.4	10.2	4.1	4.1	8.2	24.5
		男性[N=27]	33.3	33.3	11.1	3.7	7.4	0.0	11.1
		女性[N=21]	16.0	9.5	9.5	0.0	0.0	19.0	42.9
		その他[N=1]	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	成人	合計[N=477]	13.6	20.1	13.8	4.2	2.5	11.5	34.2
		男性[N=251]	15.5	21.9	13.1	5.2	2.0	11.2	31.1
聴覚障害	7-19歳	合計[N=52]	23.1	17.9	19.2	7.7	3.8	9.6	19.2
		男性[N=27]	22.2	14.8	25.9	7.4	3.7	14.8	11.1
		女性[N=25]	24.0	20.0	12.0	8.0	4.0	28.0	
		その他[N=0]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	成人	合計[N=593]	17.0	19.9	12.6	3.4	2.9	8.8	35.6
		男性[N=287]	20.6	21.3	14.6	2.4	3.5	11.5	26.1
障害種別	7-19歳	合計[N=4]	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
		男性[N=2]	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
		女性[N=2]	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	50.0
		その他[N=0]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	成人	合計[N=52]	23.1	17.9	19.2	7.7	3.8	9.6	19.2
		男性[N=27]	22.2	14.8	25.9	7.4	3.7	14.8	11.1
障害種別	7-19歳	合計[N=52]	23.1	17.9	19.2	7.7	3.8	9.6	19.2
		男性[N=27]	22.2	14.8	25.9	7.4	3.7	14.8	11.1
		女性[N=25]	24.0	20.0	12.0	8.0	4.0	28.0	
		その他[N=0]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	成人	合計[N=593]	17.0	19.9	12.6	3.4	2.9	8.8	35.6
		男性[N=287]	20.6	21.3	14.6	2.4	3.5	11.5	26.1
障害種別	7-19歳	合計[N=4]	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
		男性[N=2]	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
		女性[N=2]	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	50.0
		その他[N=0]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	成人	合計[N=52]	23.1	17.9	19.2	7.7	3.8	9.6	19.2
		男性[N=27]	22.2	14.8	25.9	7.4	3.7	14.8	11.1

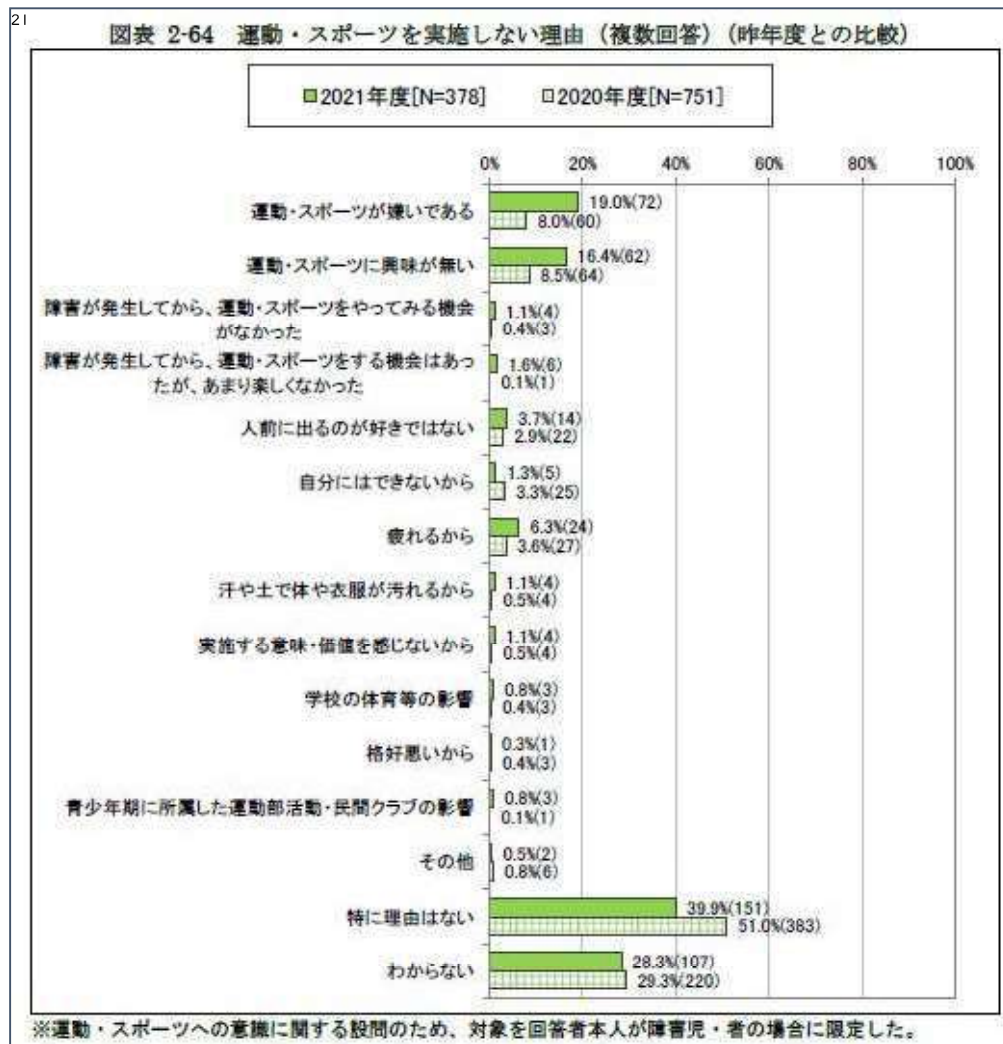
		性別	過去1年間の運動・スポーツを行った日数(%)						
			(年1日以上の日)	(年5日以上の日)	(年10日以上の日)	(年15日以上の日)	(年20日以上の日)	年1日以上	行っていない
言語・覚醒・その他(聴覚障害)	7-19歳	合計[N=38]	16.4	24.2	7.9	2.6	0.0	15.5	28.3
		男性[N=28]	19.2	34.8	11.5	3.8	0.0	11.9	19.3
		女性[N=12]	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	8.3	41.7
		その他[N=0]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	成人	合計[N=289]	16.3	15.9	12.3	8.8	3.8	9.3	38.1
		男性[N=175]	19.4	18.5	10.3	7.4	2.4	10.3	32.6
四肢障害	7-19歳	合計[N=42]	21.4	33.8	14.3	11.9	2.4	2.4	23.8
		男性[N=33]	21.7	21.7	13.4	17.4	4.3	0.0	21.7
		女性[N=18]	21.1	26.3	15.9	5.3	0.0	5.3	26.3
		その他[N=0]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	成人	合計[N=589]	22.3	18.8	11.1	1.9	3.8	10.8	34.8
		男性[N=324]	22.8	17.4	12.9	1.3	2.7	6.1	34.4
知的障害	7-19歳	合計[N=239]	21.8	29.3	10.5	2.5	2.5	12.6	29.5
		男性[N=138]	28.3	22.9	12.8	2.5	2.5	10.7	19.5
		女性[N=80]	6.3	40.0	8.3	2.5	2.5	19.3	23.8
		その他[N=0]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	成人	合計[N=488]	13.7	12.9	11.1	3.7	3.5	13.5	41.8
		男性[N=278]	14.2	14.2	10.5	5.1	2.3	12.3	40.7
発達障害	7-19歳	合計[N=210]	13.3	11.4	11.9	1.9	4.0	14.3	42.4
		男性[N=92]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7
		女性[N=90]	19.8	26.9	12.3	4.8	2.4	11.5	22.3
		その他[N=28]	22.0	25.4	12.0	5.1	2.0	11.9	19.8
	成人	合計[N=139]	13.9	11.2	8.1	4.3	3.6	10.3	25.3
		男性[N=269]	12.6	18.2	10.8	3.8	3.7	12.8	39.4
精神障害	7-19歳	合計[N=620]	15.3	17.4	9.5	3.3	2.8	10.8	49.0
		男性[N=346]	17.3	17.1	8.1	3.8	2.5	9.5	49.3
		女性[N=274]	12.6	18.2	10.8	2.8	3.7	12.8	39.4
		その他[N=0]	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	60.0
	成人	合計[N=121]	24.0	13.2	8.1	8.3	3.3	13.2	38.8
		男性[N=51]	17.8	13.7	8.9	7.8	3.9	13.7	33.3
その他	7-19歳	合計[N=85]	29.2	13.8	5.2	8.2	5.1	13.8	24.8
		男性[N=40]	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	40.0
		女性[N=45]	17.9	14.0	3.6	2.4	3.3	11.1	43.1
		男性[N=75]	19.4	19.0	8.4	2.1	3.3	15.4	43.2
	成人	合計[N=788]	16.4	12.9	8.3	2.8	4.0	10.3	44.6
		男性[N=40]	33.3	33.3	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1
その他	7-19歳	合計[N=4]	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
		男性[N=2]	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
		女性[N=1]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		その他[N=0]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	成人	合計[N=382]	18.7	10.0	3.3	3.3	2.3	15.3	50.0
		男性[N=13]	23.1	0.0	0.0	7.7	7.7	15.4	46.2
その他	7-19歳	合計[N=4]	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
		男性[N=2]	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
		女性[N=1]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		その他[N=0]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	成人	合計[N=382]	18.7	10.0	3.3	3.3	2.3	15.3	50.0
		男性[N=13]	23.1	0.0	0.0	7.7	7.7	15.4	46.2
その他	7-19歳	合計[N=4]	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
		男性[N=2]	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
		女性[N=1]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		その他[N=0]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	成人	合計[N=382]	18.7	10.0	3.3	3.3	2.3	15.3	50.0
		男性[N=13]	23.1	0.0	0.0	7.7	7.7	15.4	46.2
その他	7-19歳	合計[N=4]	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
		男性[N=2]	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
		女性[N=1]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		その他[N=0]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	成人	合計[N=382]	18.7	10.0	3.3	3.3	2.3	15.3	50.0
		男性[N=13]	23.1	0.0	0.0	7.7	7.7	15.4	46.2

<sup>20</sup> スポーツ庁委託調査/株式会社リベルタス・コンサルティング 「障害児・者のスポーツライフに関する調査」 令和4年3月



## ② スポーツをしない理由

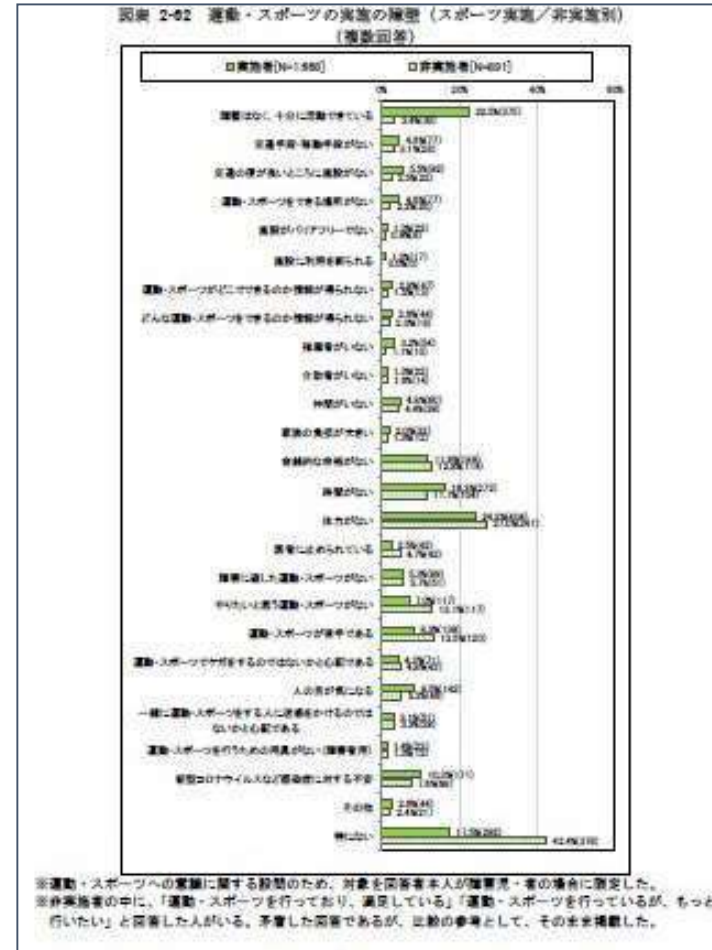
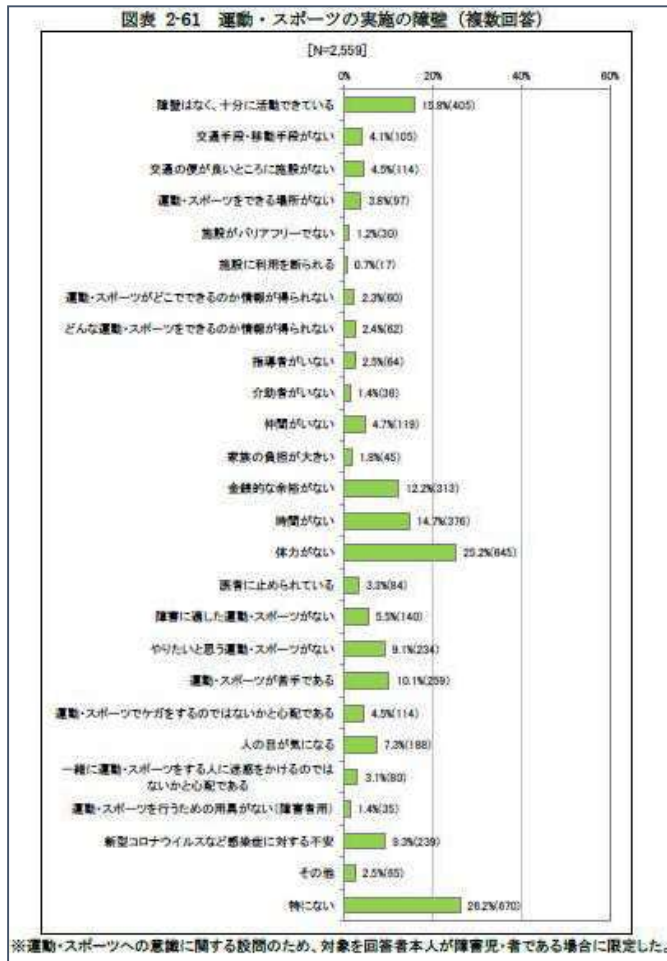
スポーツ庁の調査によると、障害者のスポーツの非実施者のうち、障壁（実際の文言）が「特になし」と回答した人に、スポーツを実施しない理由を聞くと、「特に理由はない」（39.9%）、「わからない」（28.3%）の順に高く、スポーツそのものに関心がないことがうかがえます。その他の理由としては、「運動・スポーツが嫌いである」（19.0%）の割合が高くなっています。



21 スポーツ庁委託調査/株式会社リベルタス・コンサルティング 「障害児・者のスポーツライフに関する調査」 令和4年3月

障害者の運動・スポーツの実施において障壁となっているものは、「特になし」(26.2%)、「体力がない」(25.2%) という回答の割合が高く、次いで、「障壁はなく、十分に活動できている」(15.8%)となっています。スポーツの実施・非実施別に見ると、実施者の回答として「障壁はなく、十分に活動できている」の割合が22.5%、障壁としては「体力がない」の割合が24.2%となっています。非実施者は「特になし」の割合が4割強と高く、障壁としては非実施者についても「体力がない」(27.0%)の割合が最も高くなっています。

22



## ■課題

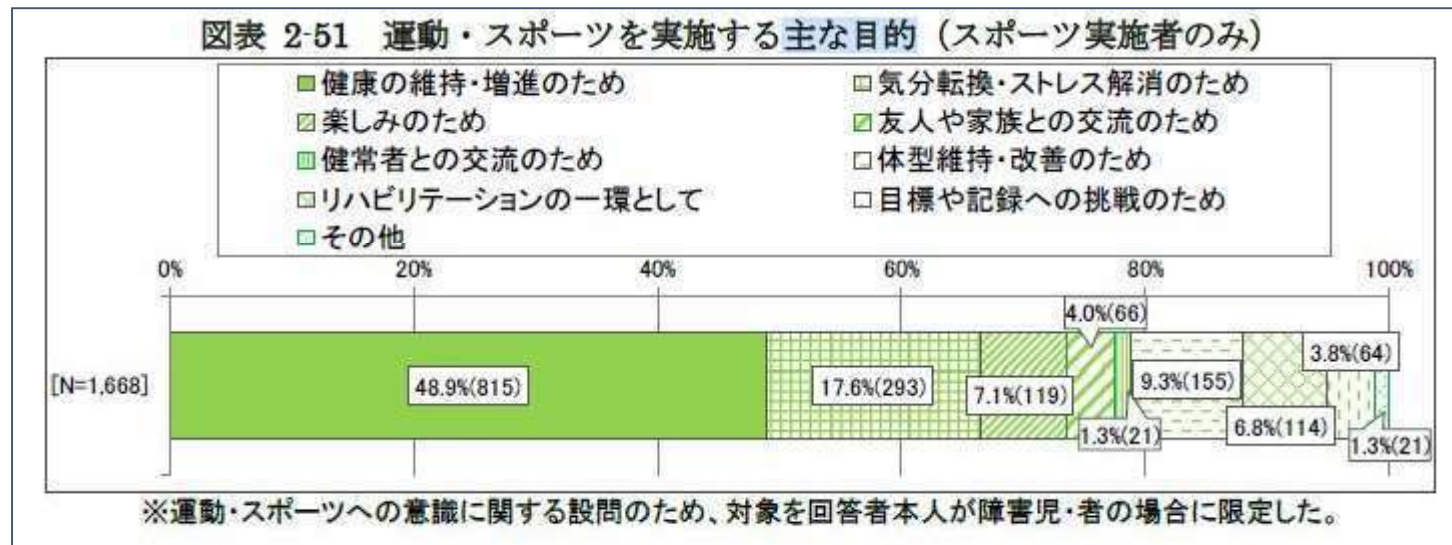
障害者の運動・スポーツの実施における障壁について、スポーツ庁は、「車いす競技は他の利用よりも著しく体育館の床を傷つけるという理由や障害があるという理由等により、障害者スポーツについて施設の利用が断られる事例がある」、「障害者スポーツ指導者を含む障害者スポーツに係るスタッフ（審判、クラシファイア、ボランティアを含む。）の確保が難しい状況がみられる。」としています。障害者が身近な地域でスポーツに取り組める環境づくりは重要です。車いす競技をはじめ、パラスポーツが身近な場所で受け入れられるように施設への働きかけが求められます。また、パラスポーツの普及を促進するため、パラスポーツをサポートする人材を育成する必要があります。



### ③ スポーツをする理由

スポーツ庁の調査によると、障害者が運動・スポーツを実施する主な目的については、「健康の維持・増進のため」(48.9%)が最も多く、次いで「気分転換・ストレス解消のため」(17.6%)、「体型維持・改善のため」(9.3%)となっています。また、「リハビリテーションの一環として」といった理由も挙げられています。

23



#### ■課題

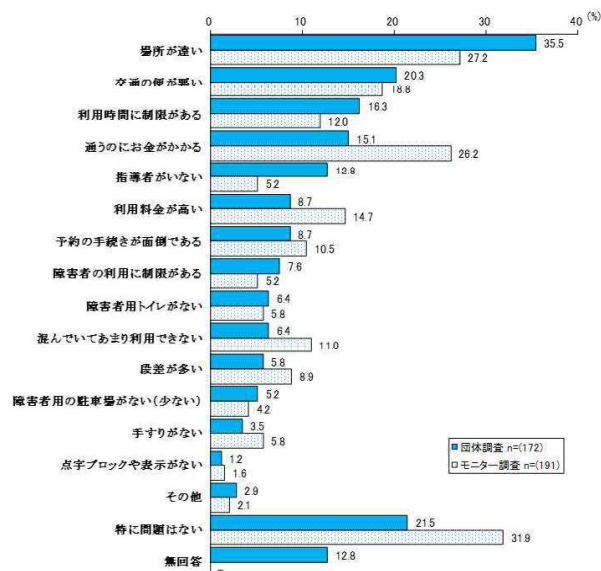
「健常者との交流のため」との回答もあることから、パラスポーツの体験等による一般社会に対するパラスポーツの理解啓発に取り組み、共生社会の実現を目指す必要があります。

<sup>23</sup> スポーツ庁委託調査/株式会社リベルタス・コンサルティング 「障害児・者のスポーツライフに関する調査」 令和4年3月

#### ④ スポーツをする場所や施設等の問題点

実態調査（モニター調査）によると、利用する場所や施設の問題点では、「場所が遠い」が27.2%で最も高く、次いで「通うのにお金がかかる」が26.2%、「交通の便が悪い」（18.8%）、「利用料金が高い」（14.7%）、「利用時間に制限がある」（12.0%）となっています。

スポーツをする場所や施設の問題点（障害者）



埼玉県「スポーツに関する県民意識・実態調査報告書（令和3年度）」

#### ■課題

パラスポーツ<sup>24</sup>の推進に当たっては、個々の障害者のニーズや意欲に応じた対応が求められます。そのためには、障害者スポーツ指導者の育成やスポーツを気軽に楽しめる施設の整備・運用が重要です。

<sup>24</sup> 本スポーツ推進計画では、上位計画である「埼玉県5か年計画」の表記に倣い、「障害者スポーツ」を「パラスポーツ」と表記する。令和3年12月定例県議会にて策定された「埼玉県5か年計画」では、「東京2020パラリンピックを契機とした障害者スポーツへの関心の高まりを背景に、テレビや新聞等では「パラスポーツ」の名称が使われており、県民にも浸透し日常化してきている。また、日本障がい者スポーツ協会は、令和3年に日本パラスポーツ協会に名称変更した。こうした状況を踏まえ、「パラスポーツ」の名称を明記すべき」とされている。日常生活において「パラスポーツ」が身近に感じられることで、障害のない方の障害者に対する理解の促進が図られ、結果として障害者の社会参加の推進と共生社会の実現につなげることが可能となる。これらのことを踏まえ、本計画では原則として、法令、団体や施設等の固有名詞を除き、一般的に「障害者スポーツ」を「パラスポーツ」と表記する。

### (3) 子供のスポーツ活動

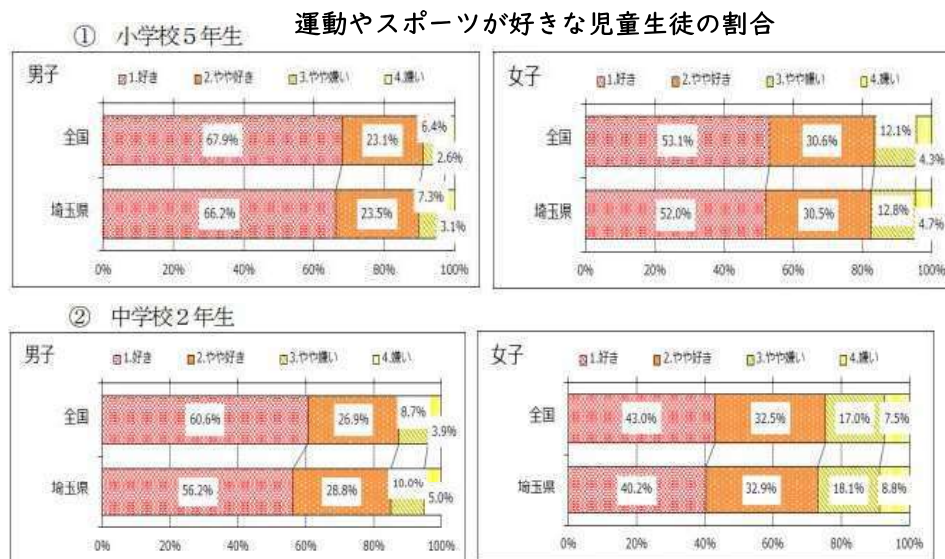
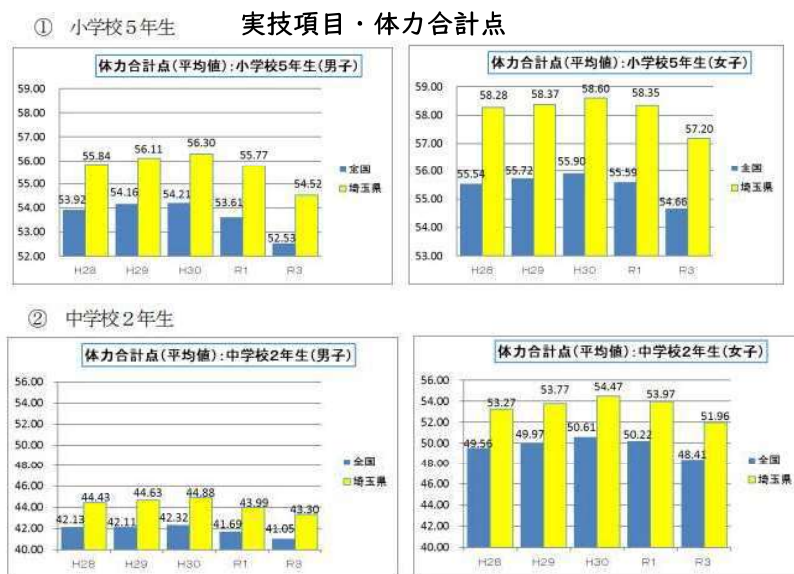
#### ① 子供の体力の状況

本県では、「埼玉県5か年計画 希望・活躍・うるおいの埼玉」の指標に係る数値として、「新体力テストの5段階絶対評価で上位3ランク（A+B+C）の児童生徒の割合」を算出しています。令和3年度は、小学校78.4%、中学校82.5%、高等学校(全日制)87.8%という結果でした。令和元年度の数値と比較すると、全体的に低下しているものの、新体力テストによる本県の小学5年生、中学2年生の体力は、全国の上位に位置しています。しかしながら、同調査では、「運動やスポーツが好き」という児童生徒の割合は、全国平均をやや下回っており、本県の課題となっています。

#### ■課題

生涯にわたる健康や体力の保持増進にとって大切なのは、主体的に運動やスポーツに取り組む習慣です。そのためにも、子供たちが運動やスポーツを好きになる（嫌いにならない）ことが極めて重要となります。

#### 令和3年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」



埼玉県教育委員会 令和3年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果について

## ② 子供のスポーツへの意識

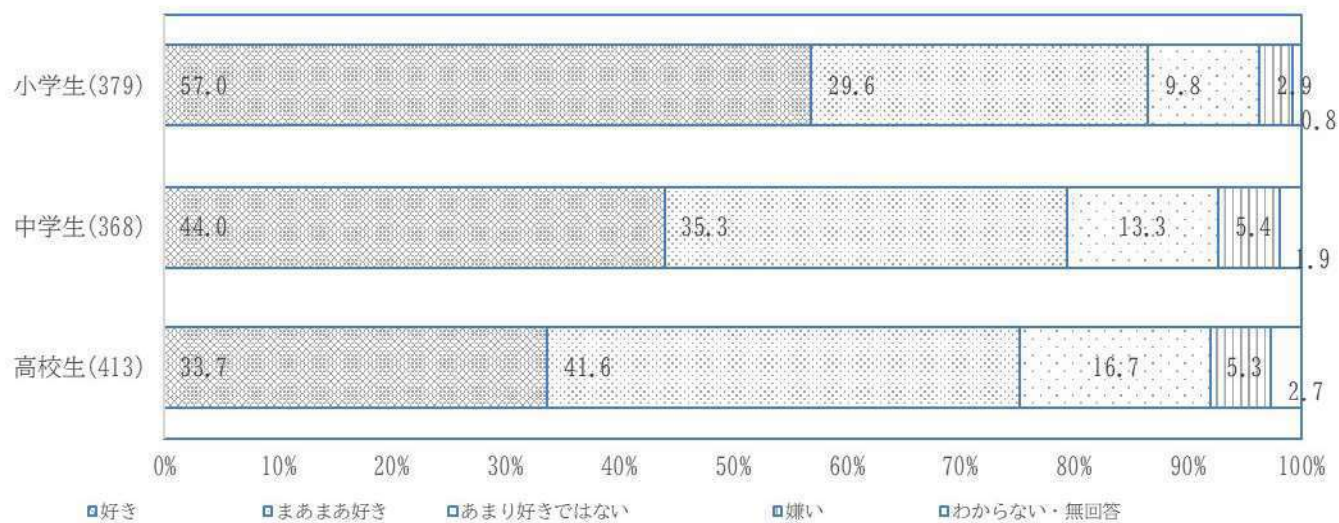
実態調査（児童生徒）によると、運動やスポーツが「好き」、「まあまあ好き」と回答した割合の合計は、小学生が86.6%、中学生が79.3%、高校生が75.3%でした。学年が進行するに連れ、運動・スポーツが好きな児童生徒が減少しています。

運動・スポーツが好きな理由については、全ての年代で「運動すると楽しいから」が最も高くなっています。運動・スポーツが好きでない理由については、全ての年代で「運動が得意でないから」が最も高くなっています。また、子供の頃にスポーツをしていた人（体育の授業以外）は、していなかった人に比較して、大人になっても実施している割合が高くなっています。

### ■課題

生涯にわたってスポーツに親しんでいく意欲や習慣を育くむためには、特に、運動が苦手な子供に対し、スポーツの楽しさや身体を動かすことの喜びを実感させるための個々の特性に応じたアプローチが必要です。また、地域においてもスポーツの魅力を実感できる場の充実に併せて取り組んでいく必要があります。

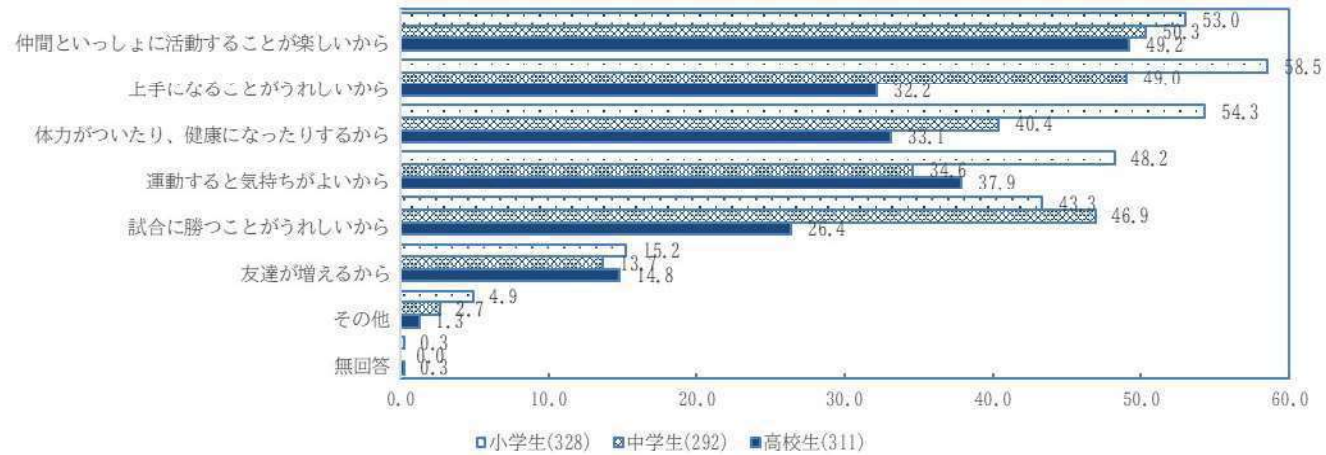
運動やスポーツをすることについて（児童生徒）



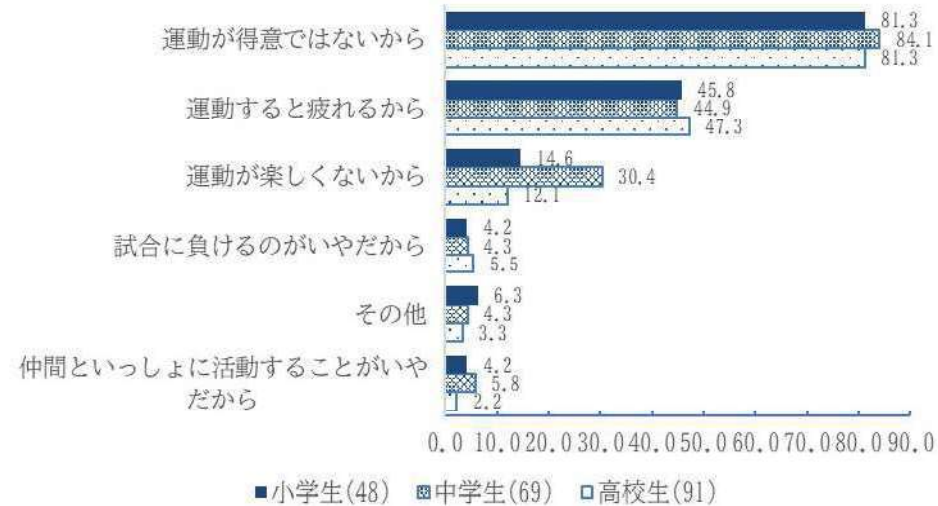
埼玉県「スポーツに関する県民意識・実態調査報告書（令和3年度）」



スポーツをすることが好きな理由（児童生徒）



スポーツをすることが好きではない理由（児童生徒）



埼玉県「スポーツに関する県民意識・実態調査報告書（令和3年度）」

### ③ 小学生の体育の授業以外のスポーツ実施状況

「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」(スポーツ庁)によると、体育の授業以外の1週間の総運動時間について、本県の小学生における「60分未満」の割合は、男子が9.5%、女子が15.2%(令和3年度)となっており、いずれも全国を上回っています。

#### ■課題

小学生の体育の授業以外でのスポーツ実施については、地域におけるスポーツ活動が果たす役割が大きいことから、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等、学校外での取組の充実が期待されます。その際、運動が得意ではない子供に対しても、スポーツの楽しさや喜びが実感できるよう、運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向にある児童生徒向けの取組において、工夫が必要となります。

1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合 ①小学生男子、②小学生女子



埼玉県教育委員会 令和3年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果について



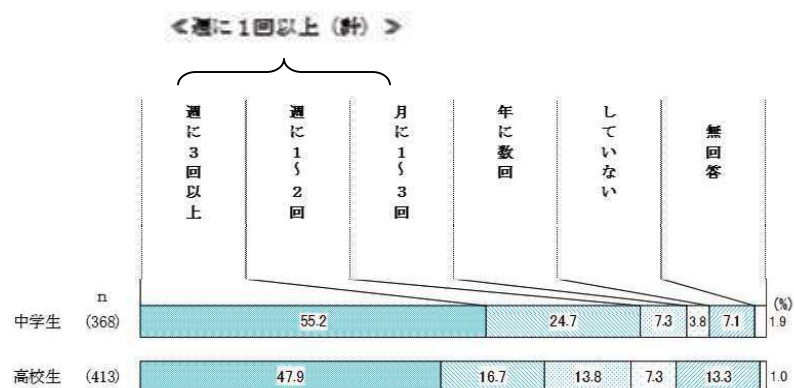
### ③ 中・高校生の体育の授業以外のスポーツ実施状況

「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」(スポーツ庁)によると、中学生では運動する子供としない子供の二極化の傾向が見られ、特に女子にはその傾向が顕著に見られます。また、実態調査(児童生徒)によると、本県における体育の授業以外でスポーツを週1回以上実施している中学2年生は79.9%、高校2年生は64.6%でした。体育の授業以外にスポーツを週3回以上実施している中学2年生は55.2%であるのに対し、高校2年生は47.9%と低くなります。

生徒が自主的・自発的に行うスポーツの場として大きな役割を果たしてきた運動部活動には、これまでも責任感・連帯感の涵養、自主性の育成、人間関係の構築、自己肯定感の向上、問題行動の抑制、信頼感・一体感の醸成などの意義がありました。一方で、学校の運動部活動を巡る状況は、近年、特に持続可能性という面(中学校生徒数の減少が加速化するなど深刻な少子化の進行や、教員の業務負担(競技経験のない部活動の指導、休日も含めた指導))でその厳しさを増しています。

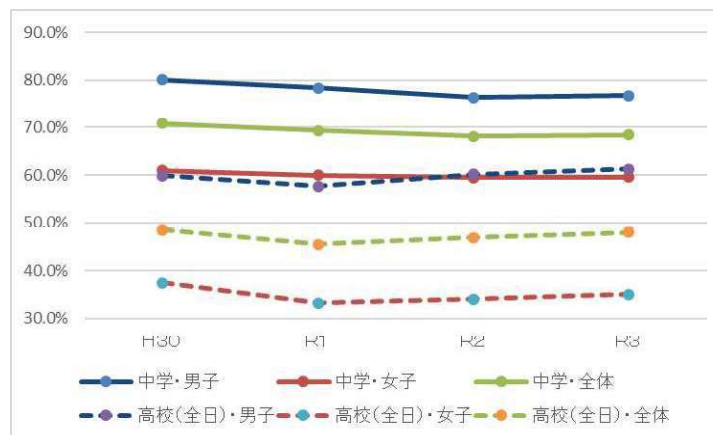
こうした状況を踏まえ、今後の運動部活動の充実を図っていくため、専門的な指導者不足や生徒のニーズの多様化、教員の働き方等、諸課題への対応を踏まえた運動部活動の在り方が国において検討されてきました。運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン(平成30年3月)、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革(令和2年9月)が発表され、運動部活動の地域移行に関する検討会議提言(令和4年6月)では、令和7年度末までを目途に、休日の運動部活動を段階的に地域移行するよう提言がなされています。

体育の授業以外のスポーツ実施状況(中学生・高校生)



埼玉県「スポーツに関する県民意識・実態調査報告書(令和3年度)」

埼玉県における県公立中学校・高等学校運動部活動加入率



埼玉県教育委員会調べ

## ■課題

子供たちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保するため、部活動の地域移行に向け、地域の持続可能で多様なスポーツ環境（受け皿となる「スポーツ団体等」の整備や支援、「スポーツ指導者」の質の保障・量の確保、「スポーツ施設」の確保など）を整備する必要があります。

## (4) アスリートの競技力向上

### ① 本県ゆかりのアスリートの活躍

東京 2020 大会では、本県ゆかりのアスリート（パラアスリートを含む）が125人出場し、24人のメダリストや37人の入賞者を輩出しました。本県ゆかりのアスリートが、スポーツ大会に出場し活躍することは、県民に勇気と希望を与えてくれます。

#### ■課題

東京2020大会の成果、盛り上がりを一過性のものとせず、夢を実現させる道を体系化し、オリンピック・パラリンピックともにアスリートの特性に合った一貫した指導が必要です。

### ② スポーツ科学の知見を活用

オリンピックのレガシーとして培ったスポーツ科学の知見などを積極的に活用し、キッズからトップアスリートまで一貫した育成支援体制の充実を目指すとともに、児童・生徒を対象に競技体験プログラムを実施することで各競技人口の増加を図るなど、裾野を広げる取組を実施しています。強化指定選手を対象に、科学的根拠に基づき年齢や性別に応じた育成プログラムを実施するほか、専門家によるトレーニング指導やメンタル指導、栄養学などのサポートを実施しています。また、スポーツ科学委員会を通じて、アンチドーピング啓発事業、国民体育大会帯同ドクター、トレーナー派遣、研修会・講習会を実施し、医科学の面から選手強化を支援しています。

#### ■課題

競技団体、部活動、スポーツ少年団等の指導者が、科学的根拠に基づいた指導ができることが重要です。また、各団体における暴力・ハラスメントの根絶やガバナンスの強化等を図ることが必要です。

さらに、県域をカバーするとともに、本県アスリートの競技力をワールドクラスに押し上げる仕組みづくりが必要です。

### ③ 屋内50m水泳場・スポーツ科学拠点施設の整備

県では、屋内50m水泳場及びスポーツ科学を活用した拠点施設の整備に向けた検討を進めています。

屋内50m水泳場については、県内の公営施設としては初の整備となり、国内主要大会も開催できる規格を有した施設を想定しています。最先端技術を活用して競技力向上をサポートするとともに、一般県民を対象とした生涯スポーツの振興や健康づくりに資する観点も踏まえるなど、様々な利用形態に対応できる施設を目指しています。

スポーツ科学拠点施設については、スポーツ科学の知見を活かした県内アスリートの競技力向上を支援する拠点としての役割を担うとともに、施設で集積・分析したデータをもとに、県内のスポーツ実践者の競技力向上支援やスポーツを通じた県民健康増進を目指しています。

#### ■課題

有識者からの知見や地元市との連携を得ながら、多様なニーズに応じた両施設の整備が必要です。